

1 3年間西洋治療を受けた後、松本医院受診。
免疫を上げることで、爪白癬、咳、あかぎれも
治った方の手記

「写真付きリバウンドの詳細」 福田文雄 69歳

2015年12月1日

平成13年12月（54才）、長期出張工事を終え一段落ついた頃、全身の関節に軽い痛みを感じ始め、近くの整形外科にかかって電気治療を開始しました。年が明けた1月の終わりまで電気治療を続けましたが、一向に痛みは取れず、かえって増すばかり。医師に「痛みが取れないから何か検査してみてください」と相談しても、医師の返事は「電気治療で治る」の一辺倒でした。

「これではだめだ」と思い病院を変えたところ、そこではすぐに血液検査をしてくれました。そして病名は関節リウマチであると知らされました。以前会社の同僚に手足の変形で苦しんでいる人がいたので、私にはリウマチがどんな病気かという知識があり、「自分もあのようにになってしまうのか。俺の人生は終わったな」と思いました。

そして、2月から治療が開始されましたが投与されたのはステロイドとボルタレンのみでした。私はステロイドの怖さを少し聞きかじって、知っていましたが、「根本治療ではないが、これしか無いのかな」と思いつつ、治療を受けていました。

しかし膠原病の治療中の知人から「私はステロイドを使わない治療を受けている。ステロイドを使い続けると体がボロボロになるよ」と忠告され、即3月から転院しました。

その病院には、産業医科大学病院の膠原病、リウマチ研究グループから出向している医師がおり、その医師が私の主治医となりました。「リウマチは自己の免疫が自身を攻撃して関節の一部を溶かし、発熱と激しい痛みを生じて、やがては関節の変形が始まる病気です」との説明を受け、治療方針としては、免疫を押さえるためにリウマトレックスを週に4カプセル服用していくと決められました。（リウマトレックスは抗がん剤の一種と説明を受けました）

しかし、治療を続けても関節の痛みは激しくなりました。平成14年5月頃にはCRPの数値が9.0まで上がりました。パンツをはき替えるのも困難に

なり、ほぼ動けなくなっていました。

5月～6月の間、休暇を取って治療に専念すると、6月中頃からCRPが除々に下がり始め、平成20年9月には1.5位になり、両足の先に痛みが残る程度になりました。指などの関節の変形は発生していませんでした。

その頃、主治医から「リウマチ新薬の治験に参加しませんか？」との誘いがあり、足先の痛みを取りたい一心で、平成20年の9月から平成25年11月30日まで約4年間治験を受けました。

治験に入ってすぐにCRPは0.05位に下がり、関節の痛みは全くなくなりましたが、2年目頃に顔から頭部にかけて帯状疱疹を発病しました。また、右手の爪が全て爪白癬に罹り、皮膚科でもらった抗生剤を指示通り飲んでも改善が見られず、諦めました。

治験終了後リウマトレックス週4カプセル処方の治療に戻ると、平成26年1月から再び足先に痛みが出始め、血液検査の結果はやはりCRPは1.15へと上昇していました。関節の痛みは増していき、リウマトレックスを週8カプセルに増量しても痛みが減少しませんでした。歩行にも支障が出始めました。

どうしてもCRPが下がらないので、発売された治験薬（ゼレアンツ）を9月から処方してもらおうと一気に痛みは消え、CRPも下がりました。しかし11月頃から風邪とは違う軽い咳が出始めました。薬の副作用が怖くなって12月からリウマトレックスに処方に戻してもらおうと、やはり再び痛みが出てきました。

平成27年になっても軽い咳は止まらず、3月頃にはだんだん咳が続けて出るようになり、間質性肺炎の疑いを感じました。そこで産業医科大学病院近くの呼吸器科で診察を受け、紹介状を持って大学病院に行き、X線検査等を受けました。主治医の診断では「間質性肺炎の疑いは無い」とのことだった。しかし医師の診察態度はパソコンのデータを見ながら話しをするばかりで、聴診器を当てる等の触診が全くなされなかったため、「これで大丈夫かな」と不安になるだけでなく、主治医に対し不信感を持ってしまいました。

ちょうどその日、妻がインターネットで「リウマチ 漢方」と検索したところ「漢方科 松本医院」のサイトを発見しました。革命的リウマチの根本治療と書かれていました。

産業医科大学病院からは、「リウマチは一生付き合う病気」と聞かされて、主治医への不信感が増大し、薬の副作用に恐怖を感じていた時だったので、「これは松本医院に行くしかない」と思いました。しかも日曜祝日も診察しているという。私の仕事は現場監督で、工事がピークに差しかかる頃でしたが、迷うことなく5月3日に来院することに決めました。

最初は新幹線で大阪に向かうことにしました。両足の甲に痛みがあり、少し歩行が辛かったので痛い所にサロンパスを貼って行きました。診察で松本先生に話を聞くと、サイトの通り「リウマチは必ず治る、必ず治してあげます」と力強い言葉をかけてもらえました。しかし「治すのは貴方ですよ」とも言われ

ました。よくよく先生の話聞くうちに、「今まで受けた産業医科大学病院の治療は何だったのだろう。」と思いました。そして、「今後大学病院の間違った治療を受け続けると薬の副作用で苦しむのは充分想像できるから、即大学病院と縁を切って松本先生の治療を受けよう」と決心しました。

先生からは「今まで受けてきた間違った治療のリバウンドは必ず来る」という話がありました。それを聞いて私は、13年間受け続けた治療のリバウンドは激しいものになるだろうと想像し、完治まで長期間かかることも覚悟しました。しかし、「必ず乗り切る」と腹をくくりました。そして家に帰ると残っていた大学病院の薬を全て廃棄し、松本医院以外の診察券も全てハサミをいれて廃棄しました。

2015年5月6日。薬湯に入り、煎じ薬を飲み始めました。いよいよ漢方による治療の開始です。煎じ薬を飲むせいか尿意が激しく、夜中に3～4回トイレに行くので、22日頃までは多少寝不足気味になりました。リウマチの症状は治療開始当初から両手首と両足の甲、指の付け根に強張り痛みが強くあり、特に足の痛みはボチボチしか歩けないほどでした。現場への巡回は必要最小限度にしました。

6月に入ると体のあちこちが痒く、鏡で見ると発疹が沢山でておりアトピーのようでした。いよいよリバウンドが始まったようでした。2015年6月7日（治療開始1カ月の状態が知りたくて来院しました）

7月になるとアトピーの湿疹が益々激しくなり、まるで桜吹雪のようになりました。電話で報告すると先生からアシクロビルを1日10錠服用するように指示が出ました。アトピーの出方に反比例して中旬にはリウマチ症状が消え、関節の強張り痛みは全く無くなりました。これが先生の言葉をお借りすると“クラススイッチ”と言うのでしょうか。

しかし本格的なリバウンドに入ったようで両手両足がむくみ、体重は69kgから73kgに増加し、体温は38.1°Cまで上昇しました。さっそく先生から抗生剤を処方して戴き服用すると、7月20日頃には体温が37.1°C位まで下がりました。先生から「困ったことがあったら何時でも電話しなさい」との心強いお言葉を戴き、安心して、だんだん激しくなるリバウンドと戦えました。

7月21日、近くの内科医院を訪れて、漢方によるリウマチの治療を説明し、点滴と血液検査を依頼しましたが、「当院ではお手伝いすることは出来ません」との返事でした。ならば飯塚市の大きな病院には漢方科があるので受け入れてもらえるだろうと電話を入れてみましたが、「まず紹介状が必要であり、いきなり漢方科の受診は出来ない」とのことだったので、家の近くではどうにもならないと諦めました。

7月26日、リバウンドが激しくなってきたところで松本医院に行きました。リンパ液はだらだら流れ出るし、全身が痒いし、とても新幹線では行けそうにもなかったので高槻まで車で往復しました。足にエアコンの冷気を当てると足

首に切れそうな痛みを感じるので、設定温度を少し上げました。横の妻が暑がっていましたが、しかたなく我慢してもらいました。診察では先生から「絶対に治してあげる」と力強い言葉を戴きました。しかし「治すのは君自身だ」と言われ「このリバウンドを乗り切ってみせるぞ」と決意を新たにしました。

この頃から体重が減り始め体温も安定しました。しかし、アトピーの症状は益々激しくなり、痒いと言うよりチクチク痛いという感じでした。リンパ液は足の脛からだけでなく頭皮から足の先まで全身から出続けており、現場事務所のエアコンの冷気で足首が切れる様に痛いし、家に帰るとエアコンが入れないので妻とは別室にいました。

こんな状態で仕事は出来ないのでお盆明けから休業し、リバウンドとの戦いに専念しました。家に籠り、下着さえ着けるとチクチク痛いので、まるで裸族状態でした。痛み、痒みに耐えるには風呂に入るのが良いので、1日に3回～4回入浴しました。しかし、湯温を40°C以上にすると湯から出ている首筋から顔、頭までにチクチクと鋭い痛みが来るので、ぬるい風呂しか入れませんでした。リバウンドのピークが夏で良かったと思いました。

8月下旬にリウマチの治療薬が無くなりました。しかしチクチクと痛いし痒みも激しくて眠れないので睡眠導入剤を処方して戴きました。この頃からリンパ液の出方が除々に減り始め、10月中旬には外出できる様になったので、10月17日に病院に行き診察と血液検査を受けました。

2015年10月17日、驚いたことに当初49だったIgE抗体の数値が4871と大幅に増加していました。

11月に入ると痒いと言うよりチクチクとした痛みが続く様になりました。体のあっちこっちに蕁麻疹が出ていました。特に大腿の内側にはっきりと見られ、それが白く枯れた様になって、また蕁麻疹が出るという事を繰返しながら、11月20日頃にはチクチクとした痛みがかなり減少し、外出も普通にできるようになりました。これで「リバウンドも終わりに近づいて来たな」と感じ、「リウマチの完治ももうじきだ」と思いました。

13年間受け続けた現代医学は何だったのか。5月の始めに松本医院に飛び込んで大正解でした。松本理論に基づいた先生の適切な治療と「リウマチは必ず治してあげます」との力強いお言葉で、激しいリバウンドに耐えることができました。大変感謝しています。又、この治療をサポートしてくれた妻に大感謝です。治療の途中から現場を離れることを許可してくれた上司と同僚にも感謝します。

なお、この治療を受けて思わぬ効果が表れました。

1. 免疫を抑制する現代医学の副作用で患っていた爪白癬が、免疫を上げることによって絶えてしまい、正常な爪が現れてきました。時間はかかるだろうが全て綺麗な爪になるだろうと思います。

2. 副作用で止まらなかった咳がピタッ止まりました。
3. 毎年冬になると腫のあかぎれに悩まされていましたが、足の裏が綺麗になって寒くなってもあかぎれの兆候が見えなくなりました。
4. 治療開始前、体重は71kgでしたが66kgに減少し、維持できています。
5. 9月30日、少し体調が良くなってきたので、家の周りの仕事をしている時、チェーンソーが跳ねて唇の左側に当たって負傷しました。直ぐに先生へ連絡し指示を仰いだところ、「赤い軟膏を塗ると良い、傷が残るのが嫌なら近くの病院に行きなさい」とのことでした。しかし他の医者は当てにならないので清水で傷口を洗って軟膏を塗ったら直ぐに傷口は塞がり、目立つ傷跡は残りませんでした。
未だ治療継続中ですが、以上でもってリウマチ治療の手記とさせていただきます。

	2015/5/3	2015/6/7	2015/7/26	2015/10/17
CRP	2.44	1.73	0.87	0.22
血沈	70	47	35	16
MMP-3	63.4		60.1	43.4
リンパ球	25.2	23.5	10.0	15
単純ヘルペス	222.8	122.7	103.6	109.6
I g E		49	541	4871

以下、リバウンドの経過写真を添付します。

7月8日撮影



リバウンドが始まり、アトピーが現れました。 体全体が桜吹雪の様です。

7月15日撮影



アトピーがだんだん広がり7月12日くらいからリンパ液が出始めました。手と足が通常の2倍くらいに腫れています。

7月15日撮影



アトピーが激しくなるとリウマチの強張り痛みが消えました。体温が38.3℃へと上がり、先生から抗生剤を飲むよう指導されました。

7月19日撮影



ますます腫れが激しくなり、当初69kgだった体重が73kgに増えていました。

抗生剤が効いて、体温は37.1℃まで下がりました。
黄色ブドウ球菌による感染症の恐れはなくなりました。

7月31日撮影



8月6日撮影



足の腫れがパンパンになり、足裏からもリンパ液が出ています。

8月19日撮影



顔が腫れ、あらゆる所からリンパ液が出ています。汚い話ですが、目頭から出ると目ヤニに、鼻の穴に詰まった様になって鼻くそに、耳の穴からは固まって大きな耳くそに、頭皮からは掻き篋るとフケとなって、大量に出てきました。口の中も出ているので常に苦みがありました。足から常にダラダラ、リンパ液が出るのでティッシュで吸い取っていました。

8月27日撮影



足裏から出るリンパ液が固まってアカギレ状態になり、強烈に痛くて歩けない状態。風呂に入らないと痛みは消えませんでした。

リンパ液の出方はいよいよ激しくティッシュは1日1箱必要でした。

9月2日撮影



リンパ液の出が減少してきたので、短時間だが久しぶりに外出しました。

10月4日撮影



リンパ液の出は概ね止まりました。手、足の腫れも少しずつであるが減少してきました。

10月16日撮影



足の腫れがかなり減ってきた。
(正常な状態に近い)

健全な爪 爪白癬の部分



右手5本指の爪は全て爪白癬に罹っていたが、免疫が上がったので白癬菌は死滅し、健全な爪に変わりつつある。

11月11日撮影



蕁麻疹が出たり、乾いたりを繰り返していました。

体中が痒いからチクチク痛いになって、そのチクチクも徐々に和らいできました。

11月27日撮影



チェーンソーが当たって負傷した箇所。
顔の皮膚が回復しています。
先生の指示通り赤い軟膏をもらったら
3日で傷が塞がり、傷痕もほとんど残り
ませんでした。

蕁麻疹のチクチクが少しある程度。



足の浮腫みは全くなくなっている。
アトピーも消え蕁麻疹が少し残っている程度。
白い粉状になっているのは少しリンパ液が出ているのかな。



足の裏が見違える様に綺麗になった。
先生のお陰で私の免疫が向上したからに違いない。
夏になっても水虫に悩まされる事はないだろう。